

**総合計画見直しに向けた  
高山市のまちづくり意見交換会(団体)  
意見概要**

平成31年1月

高 山 市

総合計画見直しに向けた高山市のまちづくり意見交換会（団体） 開催状況

開催日	団体名	参加者数
6月25日（月）	（一社）奥飛騨温泉郷観光協会	16
7月3日（火）	アソビト	2
7月11日（水）	飛騨山脈ジオパーク推進協議会	9
7月12日（木）	高山人権擁護委員協議会	10
7月17日（火）	高山・デンバー友好協会	2
8月2日（木）	NPO 法人 活エネルギーアカデミー	9
8月6日（月）	（公社）岐阜県宅地建物取引業協会飛騨支部	16
8月9日（木）	高山市民防災研究会	11
8月17日（金）	高山生活学校	15
8月21日（火）	ひだ地域リハビリプロジェクト	10
8月23日（木）	NPO 法人ブラーマ・クマリス 高山教室(インナースペース)	5
8月23日（木）	（一財）高山市体育協会	9
8月31日（金）	自治会小屋名区	12
9月2日（日）	もふっこひだ	9
9月6日（木）	川原町町内会	4
9月7日（金）	高山市福祉関係団体等連絡協議会NPO部会	17
9月8日（土）	高山市腎友会	4
9月8日（土）	天堤町町内会	14
9月10日（月）	奥飛騨温泉郷 一重ヶ根町町内会	14
9月11日（火）	たかやま林業・建設業協同組合	11
9月11日（火）	塩屋町町内会	12
9月12日（水）	中切町町内会	11
9月14日（金）	NPO 法人 飛騨高山わらべうたの会	14
9月14日（金）	飛騨高山つくり手の会	4
9月18日（火）	高山市勤労青少年ホーム連絡会	8
9月28日（金）	高山北商工会	11
9月28日（金）	高山市商店街振興組合連合会	11
9月29日（土）	（公社）岐阜県建築士会飛騨支部	7
合 計		277

# 第八次総合計画見直しにかかる意見交換会(団体) 意見概要

## ●意見交換会

分野	意見概要
観光	観光産業は過去の遺産や資源をすり減らしているようで、このままでは将来が見えない気がする。
	観光は社会情勢の影響を受けやすく、今の状況が続くか分からない。周辺に施設ができるなど時代の変化で人の流れが変わる。
	町じゅうに外資ホテル、民泊、ゲストハウスが増え、この状況がいつまで続くか心配である。観光ばかりに頼ってはいけけないのではないか。先を見据えたプロジェクトを作るべきだと思う。
	高山市の魅力を発信するためには、市民が高山のお菓子を食ったり、文化や歴史を知ることなどが必要である。特に若い人は高山のお菓子を食ったことがないと思う。まず市民に行きわたってから、外への発信が生まれる。
	高山は自然が素晴らしく古い町並があり、観光地としては十分だが、加えて、高山らしい一位一刀彫などの体験について情報を提供すればアピールになる。
	さんまち通りで我楽多市を30年以上行っているが、ここ4、5年は下火になっている。観光客の欲しいものと出品物にズレが出ている気がする。何らかのイベントを実施してほしい。
	外国からの観光客に頼るのではなく、日本の心の故郷として、日本人に来てもらいたい。
	飛騨の里は、匠の技など素晴らしいものがあるが、長い歴史の中で表向きを重視するようになってきたように思う。そこを再び、かつての高山の人々の思いを持って取り組むことで、観光客にもそれが伝わると思う。外国人も本当は、祭りの姿を見に来るのではなく、文化の内面にあるものを見に来るのではないかと思う。そこをもう少し市で考えることはできないか。
	海外からの観光客は、様々な事情に左右されやすく、またツアーの場合は大規模宿泊施設に入るが、小規模施設には入らないので、国内誘客をより進めてほしい。
	冬期間、外国人旅行者がセントレアからレンタカーで訪れる際、ノーマルタイヤで来るのが危険である。スタッドレスタイヤの着用を利用者、関係先へ働きかけることをお願いする。安全面を含め様々な観点から中部縦貫自動車道の延伸をお願いする。
	2年位前からの傾向で、外国人が連泊して観光地を歩きつづいた後、郊外の田んぼを見たりサイクリングを希望したりするので、サイクリングコースを掲載した地図があれば良い。
	市の観光マップは、上一之町、上二之町、上三之町に視点が置かれている。大新町や天満町を含めた回遊性を高める表記をしてほしい。
	市のホームページや観光マップに民間の観光施設を積極的に掲載してほしい。
	上三之町周辺に観光客が増えすぎると、風情が無くなり観光客が来なくなってしまう。幅広く高山の良さを知ってもらうために、観光マップの範囲を広げたり、不動橋や連合橋まで回遊性を高めたりしてほしい。また、中心市街地への車の進入の規制を考えることで、将来的(10年後、20年後)に魅力ある町として生き残れる。
	高山市の観光は、「飛騨高山」ブランドを中心に推進しているが、それだけをあまり訴えすぎると支所地域の特色が薄れてしまうので、すべてを飛騨高山でひとくりにしないしてほしい。計画を作る中でも、奥飛騨と飛騨高山を並べて活字として載せてほしい。2大ブランドの方が価値があると思う。
	市街地だけが観光ではない。年2回の高山祭だけでなく、奥飛騨も含め、市全体を観光スポットとして捉えるべき。
	奥飛騨温泉郷の観光振興策を行うと聞いているが、当該地区もぜひ調査(ヒアリング)をしてほしい。
	五色ヶ原の森の入山者数が落ち込んでいる。教育施設の位置づけで指定管理を行っているため、観光客等の利用につながりにくいのではないか。
	地域通貨エネポの普及に取り組んでおり、現在月に1,000~1,500枚程度流通している(1枚500円で、市内40数店舗で使える)。来年、高山で地域通貨国際大会があるが、コンベンションの補助以外でも、地元自治体として協力してほしい。
	藤枝市で開催される60歳以上のサッカー大会に参加している。歓迎会は参加費が抑えられた短時間での立食形式で、市長、議長の出席、観光協会による産品ブースなどがある。歓迎会後のアフターコンベンションでは、地域の飲食店が利用される仕組みになっている。高山市でも、60歳以上の方の誘致は有効だと思う。
和倉温泉では、誘客の観点から旅館組合が高校のサッカー大会を運営している例がある。	
商業	今の状況のままでは、地域は年寄りばかりになってしまう。永続的な産業が定着することが大事である。子どもが帰ってくることで地域に工夫が必要。
	人口減少が進むと市の財政にも影響が出てくるので、対策が必要。観光などのサービス業は、ブームが終わる可能性があることや、労働時間に制約があるため募集しても人が集まらず人手不足の状況である。例えば、大企業の誘致、高卒者の地元への就職の斡旋や、高山市を気に入った方に移住してもらうなど、人口減少を食い止める施策を実施してほしい。
	若者は、遊ぶ場所がないので富山や名古屋へ出て行ってしまふ。高山で遊べるようなところがないか。

商業	高山の人は、映画や買い物のために富山や各務原に行くが、地域で経済を回すことを考えるべき。例えば、子どもが生まれた時の祝い金を地域で使える商品券で渡し、それを地元の商店が作ったホームページからスマホで買い物し、ドローンで配達するなど。
	子育てのストレスが解消できるので、大型ショッピングセンターなどの商業施設がほしい。若者が集まる所としても良いと思う。
	観光客が多くまちがきれいだが、商業施設があまりない。買い物や映画のために県外へ行くが、遠いので大変。商業施設が増えたら若者が定住しやすく、雇用も生まれる。
	24時間のカラオケや漫画喫茶など、若者が遊ぶ場所がほしい。地元に戻ってきても何もないので、富山市や松本市に足を延ばす。高山に映画館が入ったショッピング施設が1つでもあると良い。
	高山市には映画館がないため、松本市へ行く。廃業する前に行政として対応はできなかったのか。
	山形県の鶴岡市では、映画館が10年くらいなかったが、行政とまちづくり会社が連携して、昔の建物を利用して映画館を作った。レストランとショップもある。このような映画館ができれば良いと思う。
	映画館ができたとしても、今はスマホで見ることができる。しかし、昔からあるものがなくなると寂しいので残すことも大事。
	下一之町の半分は一般家庭だが、民家が更地になり、駐車場になる。高齢者の一人暮らしが多いため、今後さらに加速する。お年寄りが歩きやすく暮らしやすい環境を作してほしい。
	まちなかに若者が住みやすくなる方策を考えていただきたい。若者が住むことで子どもが増え、いろいろな年代が増えていく。
	まちなかに展示会や催し物ができるイベントホールがあれば、市民も集まる場になる。
	中心市街地は、午後5時を過ぎると一斉にシャッターを下ろす雰囲気が寂しい。
	夜に営業している店が少ない。観光客も日帰りで良いと思ってしまう。夜も雰囲気があって楽しめる方が観光面で良いと思う。
	最近、店の近所の市民でも店のホームページから購入し、郵送を希望する。商店街の中に魅力的な店があっても、駐車するのに苦労するなど商店街が市民から疎遠になっている。
	中心市街地の中に駐車場が増えすぎている。中心市街地には駐車場ではなく、活性化できる方向へ考えていただきたい。
	国分寺商店街のアーケードが老朽化している。新しく作るための費用負担が難しいので、撤去を考えている。
	市外から転入した人は、町内会に入らなかったり、商店街の賦課金を払わなかったりする。
	商店街の賦課金を払わない商店に、特別に税金をかけることはできないか。無理であれば、高山の文化を守って賦課金を払っている商店に対する優遇措置などメリットがほしい。効力がある条例を作るなど市と考えていきたい。
	商店街で商売を始めようとしている業者に、アーケードの建設費や賦課金を払う必要があることを、あらかじめ不動産業者から説明してもらいたい。不動産業者とのつながりがないので、連携できるよう考えてほしい。金沢のまちづくり会社では、空き店舗が出ると、どのような業種の業者を入れるかまで不動産業者と連携しているので、高山でもやってもらいたい。
	国府町のショッピングセンターが撤退後、土地管理等の責任の所在が分からず不安である。今後の土地管理や活用には市でも関わってほしい。撤退後の建物が残り、ゴースタウン化することは困る。
	高山国府トンネルを境に、市街地との商業振興に差が生じていると感じる。
飛騨春慶、一位一刀彫の職人の高齢化や後継者問題について、対策は考えているのか。工芸品のPR動画を作成したらどうか。	
県外産の土産物が多い。従業員の給料以外、売上は県外へ出ていく。コンビニも含め、地元の商品を少しでも置いてもらえるようにしてほしい。	
特産品が支所地域ごとにあるが、高山産の土産が少ない。商工面で工夫する必要がある。	
金沢市では、土産物は地元で生産したものを販売しているように見えた。高山はこだわりがなく残念である。	
海外から山形県の酒屋に声がかかり、出荷するようになった。高山も酒があるのでその可能性がある。デンバー市での起業募集の案内があった。高山市の製品の販路拡大等につなげたい。	
労働	仕事がないというが、選んでいるためである。高山で働きたいと思える仕事がない。奥飛騨の旅館で働いている人は昼間時間があるので、空き時間に何かできればと思う。
	観光業に携わっている市外の人が増えており、地元の若者は市外へ行ってしまふ。経営者が京都から来ているところもあるが、廃れるとすぐに出て行ってしまふのではないかな。
	会社を誘致しても、出て行ってしまふという問題がある。海外派遣に参加した人が市の職員になった。このような取り組みを行うことで芽が出てくる。
	企業誘致では、工場等の生産分野よりも、学問や文化的な分野での誘致が高山に合っていると思う。
	荘川地域は、高速を利用すれば岐阜方面に近く、企業誘致などにも有効な地域ではないか。

労働	今の時代は、地方でも情報通信を利用して仕事ができるので、関連企業を誘致できないか。都市への集中を分散して、若者が地方へ来てくれれば良い。	
	企業が入りやすい環境をつくるべき。企業誘致によって若者の働く場を作ってほしい。	
	若者が定着できる産業を誘致してほしい。観光客よりも若者のことを考えてほしい。	
	人口減少を考えるには、大学に行ったあとの働き場と企業誘致が有効だと思う。高校生には、高山で働きたいと思う生徒もいる。	
	若者が働く場所がない。ホテルに勤めた人は3年未満で辞めるケースが多く、若い人には不向き。一方、スーパーは長く働く。スーパーは労働時間が決まっているが、ホテルは客相手で時間が固定されていないからだと思う。	
	若い人の働く場づくりが大切。外資のホテルだと主要ポストが外からの人に占められ、地元の人が働く内容は良くなかったりするのではないか。	
	若い人の働き場が必要だが、一方で高山市は賃金が低い。	
	若者は、働く場所は多いのに自分の好みがないという。贅沢である。	
	高山の豊かな自然とITが融合した高山のビジネスモデルができれば良い。若者の働く場所ができ、戻ってくると思う。	
	地方で雇用を生むには、これからは農業か環境(自然エネルギー)しかないと思う。	
	ドイツでは、環境政策に転換をしたことで多くの雇用が創出されたと聞いた。	
	農業を前面に押し出して、Uターンを増やすべき。経済が伴わないと、生活が成り立たない。	
	Uターンで戻ってきたが、市内にもっと仕事の幅があると良いと感じた。	
	Uターン就職者の補助はあるが、高校生の地元就職者に対する補助がない。高山を好きで地元に残ってくれる子どもへの補助は、費用対効果も高く、転出を食い止められるので有効ではないか。	
	Uターンの就職者に家賃補助があることを知らない人が多い。インターネットで大きくアピールすれば効果的だと思う。	
	高山の企業が社員を募集する際、市のUターンの補助制度なども併せて発信した方が来てもらえる。市としても情報発信の場が増えるので、市の取り組みについての企業向けのセミナーなどを考えていただきたい。	
	高山にどのようなUターンの就職支援制度があるのかを知らないまま市外へ出て行っていると思う。若者をターゲットにするのなら、スマートフォンを利用して制度をアピールすれば良い。	
	20~30年後には高齢化が進み税収も下がる。Uターン等、人を増やす工夫が必要。	
	農業	空家の要因の一つとして、高齢者世帯が市外の子どもの住む地域へ転出するケースがある。若い世代が地元で就職し、居住してもらうためにも、例えば市内山間部への企業誘致や自然豊かな環境で起業できるといった情報発信を考えてはどうか。
		子ども(小学生等)がイメージできる仕事の範囲は限られている。親も地元の職業に関する情報が少なかったり、子どもに地元に残ることを勧める割合が低い。
地域に足りないものや課題がビジネスチャンスと捉えられる。中高生に将来戻ってきて就職することだけでなく、起業する意識を育てることも大切。		
子育て支援は充実しているが、中高生やその先のことを考えると不安がある。10年、15年先に高山で子どもが就ける仕事があると良い。また、大学の分校などがあると良い。		
高校2年生(自分の将来を具体的に考える時期)に職業体験できる場を提供してほしい。		
学生時から受けられる保育士の定住促進制度を設けて欲しい。		
子育て中の看護師がパートや派遣で働ける場がほしい。		
市街地と比べて周辺地域は、さびれて地域がなりたたなくなるのではと心配している。今後人口減少が進む一方で、農地も荒れる。地域を守るには、農地を守ることが大切であり、そのための道路整備が重要だと思う。		
小屋名地区は、久々野町の中でも早い段階から区画整理が行われ、機械化などによって米で栄えてきたが、次の世代への継承(親から子以外も含めて)が課題である。		
空いている農地があったり、農業を始めたい人がいても、すぐに農地を取得できない。高齢化に伴い、担い手がいなくなっている。		
日本の食糧自給率が欧州に比べかなり低い。かつては、第一次産業に就くことはイメージが悪かったが、これからは違うと思うし、これから地方で伸びる産業は農業や林業だと思う。Uターンで就農する人も増えている。		
古民家を扱う不動産業をしているが、若い世帯がUターンで農業をしながら古民家に住む暮らしを希望しても、農地を取得するにはハードルが高い。耕作放棄地を上手く活用するなど取得しやすい手立てを考えてほしい。		
市民農園のように、安価で農地を貸し出す方法で利用してもらい、農業に関心を持ってもらってはどうか。		

農業	高低差(法面)が多いなどの課題がある。農業をしやすい環境(耕作地)をつくり、後継者を増やしてほしい。
	中山間地域の特徴に合った農業施策を進めてほしい。
	市の特産物であるほうれん草、トマトの売り込みは行っているのか。
	地元産のブランド米(コシヒカリ)を地産地消(ホテル、旅館で使う際の補助等)や、学校給食で使ってほしい。
	無農薬の米、野菜の栽培を活用した特徴のある地域づくりで、販路拡大や移住促進につなげてほしい。
	種子法、遺伝子組み換え等、食の問題では国の指針に関わらず、市独自の基準を設けるなど、安心・安全な食品の取り扱いに取り組んでほしい。
	最近では猪や熊が増えている。かつては向かいの山で狩猟する猟師がいたが、今はなくなった。射撃場が小屋名地区に整備されたが、後継者育成をはじめ猟師への支援を期待する。
駆除した有害鳥獣は、焼却処分するだけではもったいないので、何か活用できれば良いと思う。	
林業	日本一広い市域を活かすことを考えるべき。将来を考えると、高山の強みである山が多いことを活かして、観光よりも林業の振興を。
	市の森林の資産的価値が見えてこない。木材を林業やエネルギーに使うとしているが、本当に市産材が使われているのか。今の林業は方向性が明確でないので危惧している。総合計画の中で市が持つ強みを表に出していかないといけない。観光も良いことだが、それらを農林業につなげていくことが大切である。計画を作ることが目的ではなく、実行しなければならない。
	山の価値を高めたい。身近な財産であり、市域の90%を占める山の資源が活用されていない。保守保全には力を入れているが、木材を活用した魅力ある新たな取り組みを行ってほしい。
	林業に関する県の予算が、飛騨市にはつが高山市にあまりつかない。飛騨農林事務所理由を尋ねたところ、飛騨市は積極的に要求するが、高山市はあまり要求しないとの回答だった。高山市の組織のあり方に問題があるのではないかと。
	市長と高山の林業をこれからどうしていくのかを話し合った際、市に農政部とは別の林政部の設置について発言があった。農業と林業は飛騨にとって大切な産業である。しかし現状では、境界不明や所有者意識が低いなどの問題があるので、やはり象徴的なものとして林政部を作り、林業に対する活動を市の中から活発にすることが大事だと思う。
	森林環境譲与税を人材育成や林道補修に使ってほしい。箱モノは本末転倒である。意見交換しながら使い道を考えてほしい。
	ドローンで撮影し、GPS機器で境界の緯度経度を測り、座標データ付境界杭を使う地籍調査を研究している。
	林業が経済活動として成り立つには、重機を使った大規模な伐採等が必要であるが、山を永続的に活用していくためには、薪など必要な木を切り出す、山菜を採るなど山を大切にしながら、山と付き合うことが重要である。山に大型機械用の作業道を作ると荒れる。小型機械用の作業道を主体として路網整備すべき。
	作業道は開設の時には山側に素掘り側溝を入れて、排水を良くする方法が大切。民間で整備した作業道であっても、行政で維持管理できる方法を考えてほしい。
	木の価値が、以前は5万円/m <sup>3</sup> だったが今は1万円/m <sup>3</sup> である。木材単価を上げることはできないので、搬出コストを下げるしかない。そのためには作業道がほしい。作業道の規格も見直しが必要。
	最近では木の需要がなく売れない状況である。結果として所有者の山への手入れが行き届かず、意識も薄れている。何とかして需要を拡大する必要がある。所有者が山に対して意欲的になるような施策をこれから研究していただきたい。
	平成28年に商工会議所の方から、高山市には家具を製造する原木があまりないと聞いた。家具製造メーカーに確認したところ、山林の中にあると思うが、広大で把握できないので、ヨーロッパの木材に頼らざるを得ないとのことだった。山林にどんな樹木があるかドローンなどで早めに調査してほしい。
杉の大径木は建築物の梁に使っている。このように使い道をしっかり把握したうえで、この山は何に使うのか方針を考えていただきたい。	
高山は木が多いが一部しか使っていないので、有効に使う事ができないか。陶芸で火を使う場合の薪など、高山産の木が市内で循環できれば良い。	
昨年の冬から蔵柱地区で倒木が目立つようになり、せつかくの里山風景が見苦しい。地権者の関係もあるが、対応ができないか。	
丹生川町の八本原林道は、瓜田から旗針までの20kmを20年かけて県が整備し、完成時に市に移管されたが、崩土で通れないまま放置されている。他にも散見されるので、林政部を立ち上げていただき、林道を維持する部門、木材を生産する部門、木材を搬出する部門を作り、林政に力を注いでもらうことを切に願う。	
海外戦略	外国人旅行者は、市街地に加え郊外の田園風景等も観る。地域の人が理解した上で、観光にもつながると良い。
	アンケートでは、「海外戦略」は重要度が低いことから、政策として力を入れない方が良いと思う。
	市長の海外出張については、ぜひ積極的に行ってほしい。海外の良いものを直接市長が見に行き、幅広く連携しながらうまく利用すれば良いものができる。

地球環境	ジオパークを自然、環境だけでなく、教育や文化でも考えてほしい。小中学校への出前講座や学校教育なども考えられるので、連携して後押ししてほしい。
	市長が掲げた環境都市日本一を進めるためには、横断的プロジェクトを作って進めるべきである。
	総合計画に自然エネルギーの活用や省エネルギーの推進を図るとの記述がある。市でも地熱・水力発電の実施や地域が行う事業の支援に積極的に取り組んでほしい。
	エネルギーの活用にかかるタウン構想を聞いたが、電気の地産地消の観点からも積極的に取り組んでほしい。
	薪ストーブは、燃料代もかからず、料理も美味しくできる。ペレットストーブは停電後、燃焼室で爆発することがあるので注意が必要。
	太陽光発電のパネルが市内各所に増えているが、森林の保全、景観のこともあり好ましくない。
	太陽光発電自体は、自然エネルギーを活用するので良い面もある。
	水力発電を進めており、市にも協力してもらいながら、地域に還元できる仕組みを考えたい。市でも良い案があれば、教えてほしい。
	一重ヶ根町で進めている地熱発電は、地元企業と地域とで取り組んでいる。奥飛騨は地熱発電のポテンシャルがあるので、地域に還元できる仕組みを作りたい。
	中尾登山道にトイレを整備してほしい。
乗鞍岳のマイカー規制を見直し、せめて電気自動車は走行できるようにしてほしい。	
丹生川では、以前は40軒あった宿が廃業して16軒になった。乗鞍岳が頼りなので、規制を撤廃してほしい。	
生活環境	犬猫の保護活動を行っている。市民が犬猫の面倒を見られなくなった時、市や保健所など行政に相談するが、担当部署がないので私たちに保護の依頼がある。その背景には、管理できないお年寄りなどの問題や、放置された犬猫の面倒を見ていた人が、町内会から餌やり禁止と言われて心を病むなどの問題がある。そのため、市に相談窓口を設置し、関わっていた人に問題がある場合はケアするなど、状況によって必要な対応をしていただきたい。
	私たちの動物保護活動ができなくなると、市役所や保健所に動物の困りごとの苦情が殺到するので、相談窓口の設置を考えてほしい。
	以前は高山保健所にも動物の処分場があったと聞いた。私たちの活動では動物を100匹も保護しているのに、なぜ高山保健所は対応しないのか。
	名古屋の保健センターでは、以前は動物の処分をしていたが、現在は愛護活動や里親探しをしている。高山にもこのような施設があれば良い。
	犬・猫の避妊・去勢に対する助成制度をつくってほしい。
	犬・猫の避妊・去勢について、県の保健センターへ町内会で持ち込めば手術代が無料だが、美濃加茂市にあるのでなかなか行くことができない。飛騨で対応できるようにならないか。
	最近の子どもは、動物アレルギーに敏感になりすぎて、必要以上に犬・猫を怖がる子どもがいる。犬・猫に詳しい方の話を聞く機会があれば、正しい理解を得られ、気持ちや和らぐと思う。
	私たちの動物保護活動で放し飼いの猫を捕獲しているが、捕獲の頻度を上げないと増加を抑えきれない。私たちの許容量は限界なので、今後は受け入れられなくなる。そのためには各町内会で捕獲し、避妊・去勢することが必要だが、手術費用の問題がある。市から避妊・去勢の支援をいただくことで、今後の問題が抑えられる。今が大事な時であり、何とか考えていただきたい。
	「猫に餌やり禁止。見つけたらペナルティや、「飼い猫は登録すること。それ以外はすべて保健所へ連れて行く」と回覧している町内会があるが、法律違反である。正しい対応として、「飼い猫は増やさないと避妊・去勢してください。放し飼いの猫も餌をやっているのなら避妊・去勢してください。捕まえられなければ相談してください」という内容で回覧してほしい。猫に対する正しい知識を市役所から町内会に伝えてほしい。
	火葬場は、立派になりすぎないよう、将来の人口に見合った規模で建設したほうが良い。
	火葬場建設は、議論が始まってから20年くらい経っているので、できるまでにはまだかかる気がする。早く良い施設を整備してほしい。
	火葬場とごみ処理場はどこまで進展しているのか気になっている。
	ごみ処理場を建て替える際は、老朽化している市民プールを、ごみ処理場敷地に併設し温水を活用するなど地域が恩恵を受けられる考え方を取り入れると良いのではないかと。
店の前の消火器の周りに毎日ごみを捨てられるので、張り紙をしたところ、今度は消火器の格納箱の中に捨てられるようになった。コンビニのごみ箱もあふれている。人が増える分、環境への対策が必要。	
養豚業者の影響と考えられる河川の白濁や臭いについて、長年川下の住民は苦しんでいるので、対応をお願いします。	
観光客が奥飛騨の風景の写真を撮ることが多いので、景観を考え、電線を地中化してほしい。	

景観	電線の地中化の進捗状況が気になっている。
	屋外広告物として、自社屋上の看板を撤去したが、議員活動の看板も、景観に配慮して乱立を防ぐようにしてほしい。
	ブロック塀の撤去や設置等で市の補助があるとありがたい。
	景観保存区域の指定を受けた地域に住んでいる人は、どのように感じているのか。指定を受けた地域に住む人が、保存や改修等で住みづらくなる前に市で指導等があると良い。当該地域の中に異質な住宅があることがある。町内会(新宮町)で景観保全の働きかけを行っている例もある。
	古い町並はまちの一角でしかなく、さらに最近は建物が駐車場になるなど、情緒が次第になくなっていく。他地域では、例えば奈良井宿は町並全体が昔のまま残っているし、京都は家の外観に手を加えることができないようにしている。高山のこの状況が続けば、古い町並をアピールすることも今後厳しくなっていく。
	外国人は宮川の水のきれいさに感動するが、昔の方がもっときれいだったので、今以上にきれいにしてほしい。水をテーマにしたら話題になると思う。
	高山駅舎の「JR高山駅」の文字が夜見にくいので、改善してほしい。
	岐阜県建築士会飛騨支部では、今年度から次年度まで北方・法力地区の景観保全活動に取り組むこととしている。丹生川地域の方が、自身の地域をどう思っているか、認識できていないので活動の中で高めていきたい。
	昔、北方・法力地区を大学の先生等が調査したが、その内容や結果が活かされていないので惜しい。
	丹生川地域の北方・法力地区の景観保全に市の支援等があると良い。
学校教育	児童数が減り今は1学年1クラスだが、先生の負担軽減、目が行き届いた授業など、子どもの教育を考えると少人数で複数クラスにしてほしい。
	10年、20年先を担う子どものため、先生の加配に予算を充ててほしい。子どもが小さいときから教育を手厚くすることが重要であり、長い目で見て教育予算をつけてほしい。まちづくりは人づくりであり、将来のまちづくりのための教育に力を注いでほしい。
	大学を卒業した新任の先生が学校でいきなり授業をするのは大変なので、退職したベテランの先生と一緒に教室に入って授業を見てもらえば良いと思う。
	部活動の指導者が少ないため、その育成、確保が必要である。
	少子化により複数の学校による合同チームなどのケースがある。部活動には力を入れてほしい。
	今後学校での部活動がなくなった場合は、体育協会が指導することになると思う。その際は、市からの財政的な支援を望む。
	土日の部活が減る中で、中学生の行き場が市内にない。ビッグアリーナの開放日を増やしたり体育館を開放するなどの施設の有効利用や、自然を活かした施設があると良い。
	親が子へ将来のこと(地域のこと、高山で働くこと、後を継ぐことなど)をしっかりと話す必要がある。
	中学校では職場体験など郷土教育に取り組んでいるが、高校に入ると大学進学のことばかりになる。いい大学に入って一流の企業に入社することが人生の勝ち組という価値観を高山から変えることはできないか。吉城高校では、地域課題の解決に関する教育を行っている。高山の高校でも、転出した高校生が、戻って来て高山の課題に取り組もうと思える教育をできないか。
	高校生の時から、どのような生き方をしていくかを考えることが大切。以前は高山高校に福祉科があったが今はない。福祉に関する専門科を創設してほしい。
	中高生にもまちづくりやボランティア活動に参加しやすい環境を整えると良いと思う。ボランティア活動に対して、エネポを提供する事例があり良い取り組みと感じた。
	成人年齢が18歳になる。さらに自立、行動力、発信力を身につけられる教育をしてはどうか。
	昭和20年代は、子どもは親について山などへ行き、薪運びなど生活のことを学んだ。子どもの頃に経験しておくことが大切で、「子ども大学たかやま」はそうした狙いがある。今の子どもは恵まれすぎている面があり、子どもに様々な体験をさせることを行政で考えてほしい。
	若者は、自己中心的な人が多いので、思いやりの気持ちをしっかりと教育してほしい。さらに若者だけでなく、世の中全体がそのような流れになってきていると感じる。
	今の子どもはストレスが多く、小動物をいじめて発散することがある。動物について学ぶことがないので、年1回でも学校で教えることがあれば良い。
	西小を卒業して松倉中へ通う生徒は学年で1人、2人しかいないため、馴染みにくいとの話を聞く。学区の見直しなど改善できないか。
	中学校の統合により、新穂高のスクールバスが不便になった。中学校へ行く途中でバスを乗り換えるので、遠いのにさらに時間がかかっている。乗り換え無しのバスか、のらマイカーで対応してほしい。
奥飛騨地域は、高山の高校に通うのにバスで1時間30分かかり、料金も20万円くらいかかる。	



	<p>大八地区は、夏期は自転車通学の中学生が冬期は徒歩通学になるが、歩道がなく除雪も不十分であるため、冬期間はスクールバスを出してほしい。こういう状況では、子どもが住み続けたい地域と思えるか疑問であり、過疎が進む要因にもつながると思う。</p> <p>県立看護大学を卒業する際に、病院から就職の勧誘があり助成金も出るので、高山に帰らなくなる。高山市で奨学金を出せば帰ってくると思う。</p> <p>若者が出ていかないように、また、戻ってくるためには、大学誘致が必要だと思う。大学に行くと愛着が生まれ、その地域で就職することが多い。</p> <p>大学の誘致が難しいのであれば、せめて学部だけでも誘致できないか。</p>
生涯学習	<p>高校を卒業して進学先で就職することが多い。地元で大学がないことを残念に思う。</p> <p>子どもは大学に行くために市外に出て、そのまま市外に住み続けてしまう。小学校から高校までの間に、いかに高山を好きになってもらうようにするかが大事である。</p> <p>親が高山の魅力を子どもに伝えることが大事である。</p> <p>若者が楽しむ場所がない。住みたいまちにしてほしい。</p> <p>10代の子ども達が、大人に憧れていない気がする。大人との関わりが希薄で、大人も楽しそうに見えない。</p> <p>高山は、科学館や水族館など、子どもが興味を示す施設がない。市長は未来ある子どものためにと言っているが、子どもを育てるのに適した環境ではない。高山は小さいまちだが、そのような施設が少しでもあったら良い。まちの体験交流館は利用者がほとんどいないので、子どもが利用できるものにするなど、子どもを育てる環境を作ることで、子どもにとって魅力的なまちになると思う。</p> <p>勤労青少年ホームは決まった利用者が多い。存在を知らない人がいるので、周知に取り組んでほしい。</p> <p>地域の公民館を活用して、歌を歌ったり好きなことをするなど、沙龙的な利用をしたらどうか。</p> <p>オープンカレッジについて、もう少し実施方法を工夫することが大事ではないか。観光の講座に参加したが3人しかいなかった。</p> <p>ヴォーカルアンサンブルコンテストが毎年開催されているが、子どもたちが歌う際の伴奏のピアノの音が大きくて、歌声が聞こえなかった。毎年、漫然と行われている感じで残念だった。</p> <p>音楽活動の一環でフェスティバルを毎年開催しているが、周知もあまりできず客が少ない。大きなイベントに限らず補助金を出してくれば、全体が活性化すると思う。</p> <p>先人からの文化伝統を継承する活動に取り組んでいる。</p>
	<p>小中学校のグラウンドの照明が夜7時以降でないと使用できない(市立学校の施設の開放に関する規則にも明記されている)。日が短いときなどは暗いため、7時前のグラウンド使用ができない。</p> <p>冬場にグラウンドゴルフ、ゲートボールができる室内施設を整備し、健康増進を図るべき。</p> <p>施設を整備する際は、付帯設備もしっかり整え、競技意欲が向上するような施設を作してほしい。</p> <p>スポーツ施設整備が遅れており、市職員の意識が低いと感じる。</p> <p>総合計画にサッカー場整備までは書けないとしても、意志を表してほしい。</p> <p>体育協会では、20年に渡ってサッカー場整備を要望している。数年前にある団体では、市の事業として相談業務を受託(新たに15人採用)したが、その業務に要する費用の数年分があれば、サッカー場が整備できるのではと思う。</p> <p>サッカー場整備に必要な予算確保が単年度で無理であれば、複数年で考えてほしい。</p> <p>38回を数える少年サッカー大会を開催し、遠方では静岡や兵庫等から、3~4泊で親子合わせて約2,000人が来る。4~6つすべて土のグラウンドでやるが、参加される指導者等からも芝生コートを望まれる。県内でも各務原市や関市などは何面も芝生のコートを整備しており、他市より整備が遅れている。</p> <p>人工芝か天然芝のサッカー競技場が他市では普通に見受けられる。</p> <p>大きな大会を行う際は、飛騨市の会場か中山公園陸上競技場を併せて借りる状況であり、サッカーコートは、2面は必要。</p> <p>40~75歳以上のサッカー大会の категорияがあり、高山でも60歳以上の categoria のチームが2つある。</p> <p>サッカーは雨天時でも行うため、雷を回避する設備も必要。</p> <p>高山市にはサッカー専用の競技場がないため、大八グラウンドか中山公園陸上競技場を使用しているが、使い勝手が悪いため専用競技場の建設を要望する。子ども達の想いに投資すべき。</p> <p>大八グラウンドは、野球やグラウンドゴルフ、ゲートボールや消防の操法大会の練習など多目的で使用し、また、雨天時はぬかるみや土の流出が起り、晴天時は土ぼこりが舞う。サッカーコート用のライン引きもその都度やる必要があり時間もかかる。</p> <p>中山球場が老朽化しているので、改修してほしい。</p>

スポーツ	中山公園野球場の改修と、新野球場の建設を要望する。
	中山公園野球場は、本部席が狭い上、石灰などの置き場にもなっている。また、観覧席も少なく、トイレも一つしかない。
	硬式野球場の建設について職員に話したら、子どもの数が減少しているし、維持管理費もかかると言われた。建設することで、高校生が野球に励むようになり、交流が生まれるなど地域の活性化にもなる。気概を持ってこれから考えていってほしい。
	3年前の斐太高校の活躍や西高校の硬式野球部創設などもある中で、飛騨地域で高校野球(県予選)が見られない。高山市から甲子園や全国で活躍する選手を出したい。
	全飛少年野球をやっているが、グラウンドでなく中山公園野球場を使いたいという希望が多い。
	スポーツ少年団の中で野球がいちばん団数が多い。
	女子が少年団のチームに入るケースも増えている。大会開催時は女子選手用に更衣室としてテントを設置し、囲いや照明をその都度用意しなければならない。
	指導者が少ないので、指導者に対する講習や指導者を養成する教室を開催してほしい。
文化芸術	スポーツコンベンションでビッグアリーナを使用することは歓迎するが、種目(バスケットボールなど)により設備の準備・片付けに時間を要するため、他の利用者との調整が必要。特に8月は需要が高い。
	気軽に木工制作ができる場所がないので、若い人が育たない。まちの体験交流館は、伝統工芸の体験だけでなく、ものづくりをする人が制作したり交流したりできる場所になれば良い。
	つくり手の拠点となる常時交流できる専用の施設が欲しい。観光客だけでなく市民にも見てほしいと思っている。
	制作した作品を披露、販売するために遠方へ出かけているが、負担が大きいので、高山でもものづくり、お披露目などができる集会的な施設がほしい。テレビの番組で、廃校を活用した各教室での作品作りを紹介していた。
	制作した工芸品を発表する場が少ないので、美術館がほしい。高山の特徴である木を核にしたら良い。安曇野のように地域全体で取り組み、文化芸術の水準を高めたい。
	高山の人は、文化を守ることや伝統的なものづくりをすることが専らだが、美術館があれば、外の文化を学ぶことができる。高山で芸術発表したいアーティストは多いと思うので、呼び込んで交流すれば楽しめると思う。人口9万人の市で、陶芸、木工、染色、とんぼ玉など、これほど様々な専門家がいないまちはない。いろいろな企画ができると思う。
	他にはない高山だけのオンリーワンのものがあれば良い。例えば究極のラーメンなど。美術館についても、作るならオンリーワンのものを作っていただきたい。
	文化芸術祭こだま〜れは、いったい何のために何をやっているのか分からない。誰もが理解できるような説明をすべき。
文化芸術祭こだま〜れは、参加者だけが楽しくやっているが、参加していない人は興味が全くないように見える。	
歴史文化	住民が減少して必要な人数が整わず、祭りの行列ができなくなってきた。地域では祭りを後世に残すためビデオに録画した。こうしたことに市の助成があると良い。
	少子高齢化が進む中、祭りの継承をどうしていくべきか氏子で話し合ったが、具体的な解決策までは出なかった。若連中頭のなり手がおらず、5年先は今の状態で継続できないと思う。今年の例祭をビデオに収め、希望者に千円で販売し伝承を絶やさないようにしている。
	高山の人は、新しいお店が出来るとう行列ができるがすぐに行かなくなる。熱しやすく冷めやすいが、一つのことに集中して取り組めば力が出る。まちの体験交流館も飽きられないよう継続する方法を考える必要がある。
地域福祉	少子化対策として子どもを増やすためには、まず結婚支援があれば良い。若者同士が交流できる場があれば良い。高山は人と人とのつながりが深いので、そこを活かせないかと思う。
	市では結婚相談所を開設しているが、街コンのように参加しやすい企画を提供してほしい。結婚すれば人口の増加につながると思う。昨年実施された民間のカップリングパーティーは盛況だった。例えば京都や東京では、神社仏閣の寺社コンを実施しているので、高山でも開催したら良いと思う。そのほかにも神社に限らずいろいろな企画をお願いしたい。
	足が悪くなり移動が大変なので、各地に休む場所をつくってほしい。
	年を取ってから、出かけるときに座るところがほしくなってきた。最近ではスーパーや医者の前にも椅子を置くようになった。町内に椅子が1つ2つあるとありがたい。
	歩道に置いてある椅子は、冬は避けて除雪するため、雪の山になり事故も起こる。設置しない方が良いと思うほどである。冬のことも考えるべき。
	市でユニバーサルベッドを積極的に設置していただき大変ありがたい。
高根ののくとい館のような仕組みを、高山全域に広げられると良いと思う。冬は一人暮らしでは心細い。雪下ろしも大変である。食事は地域のボランティアを利用できると思う。	

	町内会の班長のところに災害時要支援者名簿が渡されるが、自分が危ないのに家族を犠牲にして対応するのはいかなものか。考えてほしい。
	災害時に避難しようにも、車椅子や寝たきりの人は避難所である三枝保育園に行くことができないし、設備が整っていないので行かない。要支援者台帳は手上げ方式ではなく、市でピックアップし、地元が支援した方がよい。
児童福祉	子育てをしている母親のために、座敷で食事ができるお店や、おむつを交換できる公共施設などの情報があればよい。
	市ホームページのトップ画面に子育て支援にリンクするバナーを設定してほしい。
	今まで妊婦などへの子育て支援の案内は冊子だったが、今の若者はスマートフォンで情報を得るので、ラインの公式アカウントを作って情報提供する自治体が増えている。対象が20代、30代であれば、どのような情報発信をしていけばよいのか考えた方がよい。
	子どもだけでなく高齢になった親の世話のことも考えるようになり、不安を抱えて生活している。悩みが同じ人と一緒に活動することで、情報交換しながら楽しく過ごせる。子育てについて、市や地域と一緒に考えていけるとありがたい。
	他県から嫁いだため、出産時に頼るところがない。
	産前産後のケア(子どもの面倒、買い物支援含め)をもっと充実してほしい。
	市内では育児用品の購入先や店舗での品揃えが少ない。
	週末に市内で遊べる場所が少ない。
	子どもは県外など遠いところへ遊びに行っている。子どもが楽しいと思えるまちにするため、例えばアンパンマンミュージアムなどがあればよい。
	女性の働く場の確保をお願いする。保育園入園の条件で、就労証明がないと入れないということで、手続きが大変だった。
	母親が仕事で市外に行く場合、上の子は幼稚園に預けられるが、下の子は年齢が低く預けられないので別の施設に預ける。同じ幼稚園に預けることができないか。
	未満児(1歳くらい)から保育園に預けるケースが増え、上の子と違う保育園、幼稚園に通うケースがある。
	夜間保育は1歳以上から未就学児が対象だが、小学3年生まで対象を広げて利用しやすくしてほしい。
	介護や看護職は夜勤もあり、夜間保育で上の兄弟もいる場合など小学校3年生くらいまで預けられると助かる。
	未満児で保育園に預ける人が増えている。休日など預けられる場所の拡大を。
	働き方改革で、残業代が減る傾向があり、共働きで待機児童が生じることを懸念する。
	子どもをたくさんほしいと思っても、お金がかかるためやめることがあるので、3人目以上の出産時に例えば500万円を支給するなど、思い切ったことを考えてほしい。10万円や20万円では効果がない。子どもにお金がかからないような施策を考えてほしい。
	子ども医療費が中学生まで無料であることはありがたい。
	子ども医療費や児童センターの利用などは無料だが、運営を考えると払うべきではないか。無料に慣れすぎてはいけなと思う。
	母親向け講座(はみがき、リトミック、おむつはずし、クッキング等)が充実するとよい。講座は親子ともに学べる機会になるとよい。
	土日に父親が参加できるイベントがあるとよい。
	親子の愛着形成のため、週末にイベント等をしてはどうか。
	つどいの広場の利用者には、移住者や転勤の人も多い。未就園児向けのイベントが充実するとよい。
市のイベントで子ども向けに配布する菓子は、添加物の少ないものや地元産の菓子にすべき。	
小学生時の体験が大切。農業体験、牧場体験など。生き物とふれあえる場(動物ふれあいイベント等)があるとよい。	
週末など、子どもが移動バスで市内を巡って、社会体験できる場があるとよい。	
高山で育った時の良い思い出が必要。小学生の頃から仕事体験ができる機会を設けてはどうか。	
小学生向けの職業体験をやっている。まちづくり協議会とも共同してやっているが、まだ浸透しにくい面もあり、市の協力も得ながら理解を図りたい。	
子どもの将来を考えていく中では、親の子離れが大切。過干渉もあるのではないか。	
障がい児や高齢者が利用する福祉施設がたくさんできているが、こういうことをやりたいとか利用する人のためというより、補助金を活用するために事業をしようとするように感じられることがある。	
小屋名地区では、昨年結婚して同居した場合や子どもが生まれた時に5万円のお祝い金を出している。結婚2件、出産4件の実績があった。	

高齢者福祉	福祉有償運送が自治会でもできるように法律が改正されたので、今まで運営していた福祉有償運送をやめた。ところがまち協による取り組みがない。利用者から徴収できるのがタクシーの半額程度が限度で、赤字になるためだと思う。現在は高山地域と支所地域それぞれ1事業者のみで不足している。体が不自由な方が住みやすくなるようまち協に実施してもらえるようにしてほしい。
	市民アンケートでも関心が高かったように、高齢者への対応が必要である。病院や買い物に自分で行ける人が、次第に行けなくなるので10年、20年後までにきめ細やかな公共交通を充実させるべきである。
	将来、デイサービス(送迎も含めて)等の高齢者福祉への対応がしっかりできるよう今から対応を望む。
	老人施設への入所を考えている家族からの相談として、収入が中間層の方は子どもにお金がかかり施設に入れられないと悩んでいる。中間層に対する施策が手薄である。
	雪またじは、近所や地域の親戚の助け合いで対応しているので、支援が必要な高齢者世帯は現在のところない。
	高齢者の有償ボランティアを行っているが、一緒にやってくれる人が少ない。また、ボランティアを利用される方は、ボランティアが同じ地域の知っている人だと嫌がる。地域で助け合える環境を進めてもらえるとありがたい。
	見守り委員として民生児童委員と地区内を巡回したが、独居老人や生活保護を受けてアパートで生活している人を多く見かけた。また、知らない人が多く人間関係も疎遠になっている。この傾向は続くと思うので、見守る体制は今後どうなっていくのか不安である。
	高齢者の増加に伴い認知症の方が増えている。認知症の方を地域で支えることを考えてほしい。
	高齢者や認知症でも、社会に貢献できることがあるので、活かすことができないか。それが住みやすいまちになると思う。
	指導者の育成については、一般の人は仕事もあり、なかなか時間が取れないことも多い。元気な高齢者を指導者として活用できれば、高齢者の生きがいにもなる。
	高齢者の医療費にかかる市の予算割合が高いと思うが、健康でいられることでお金がかからないため、未然防止策として若いうちからスポーツに親しむことが大切である。
	介護予防は効果があるが、単価が安く採算が合わないので広がらない。市町村の裁量に任されていると思うので、採算が成り立つように補助を出すと健康な人が増える。
	高齢者向けの体操教室(数回シリーズ)を指導し、効果が出ている人がいるが、教室終了後の継続が大切なことを浸透させていきたい。
	地域の高齢者に楽しんでいただく場として、ボランティアによる「おしゃべりサロン」を毎月開催している。夏休みは、子ども達との交流も行っている。
	介護の人材が不足している。どこも人手不足なので、来てもらうのを待っているだけでなく、専門学校や大学に勧誘に行ったり、何か目玉を作ったりしないと帰ってこない。
老人ホーム等を運営しているが、福祉だけでなくその他の職種についても全国的に人が足りない。市外の学校に行っても高山に戻ってこない。生き生きと楽しんで働ける職場じゃないと若者は来てくれない。	
高齢化問題については関心を持っている。高齢化から過疎化や空家の増加につながっている。	
高齢者は自助の精神で、見守るべきと思う。	
個人情報保護の関係(オレオレ詐欺防止等)で、敬老会の名簿に、最近では100歳など一部の人しか年齢が記載されていない。必要な手立てだとは思いますが、寂しい気もする。	
障がい者福祉	高山市の福祉は、他県、他市町村と比べても優れている。しかし障がい者の入所施設はあまりないのではないかな。
	障がい者の就労支援事業を行っているが、平成29年4月に報酬単価が減額され、運営が苦しくなった。飛騨市は福祉に力を入れているので、新しく事業所を開設し、数々の補助を受けていて条件が良い。これからも障がい者を支援していきたいので、高山市にも補助をしていただきたい。
	運営している短期入所事業所は、福祉避難所として市と協定を結んでおり、先日、重度の障がいのある方の家が停電になり預かってほしいと言われた。避難指示・勧告が出た場合の受け入れは行政から報酬が出るが、出ていない場合に契約外で受け入れた際は、報酬は出るのか。それとも実費を徴収していいのか。
	障がい児を育てているが、子どもが成長し、親が死んでしまった時はどう生活していくのかを心配している。
ショッピングセンターなどで、障がい者のことを考えたつくりしてほしい。	
保健	透析は糖尿病の65歳以上の人が多い。透析にならないための早期発見、早期治療の呼びかけ運動をしている。市では健康診断を行っているのですが、この運動とタイアップし、糖尿病の人に指導すると良いのではないかな。糖尿病予防に力を入れてほしい。
	周りから生きていくのがつらいという声や、高山は自殺率が高いという声を聞くので、何かを抱えているように思える。対策の一つとして、子どもが小さいころから愛着形成していくことが大切なので、母親が仕事をしながら安心して子どもを育てていけるような環境が大事だと思う。

	<p>束縛と自立は両極端だが、どちらも必要であり、若い人はこのことについて理解を深めるための話し合いの場を求めていると思う。自分に自信を無くしている人が活力を取り戻すことが大切であり、人が生きるといふ普遍的なところを充実させれば、生活に満足する人が多くなると思う。</p>
	<p>今の時代は多様化しているのに、これは良いこと、これは悪いことなど、個人個人の物事の考え方の是正が求められている。人はそれぞれ多種多様であり、なかなか考え方を換えられない中で、生き抜く力が非常に大切になっている。根本的な物事の考え方や捉え方などについて、取り組みを行っている部署はあるか。</p>
医療	<p>高齢者が安心して歳をとれるよう、安全な医療を受けられる環境を整えてほしい。</p>
	<p>大きな病気の治療ができる医者は市外にしかいない。医師の確保をしてほしい。</p>
	<p>医師の数が減っている。医師の確保をぜひお願いしたい。</p>
	<p>小児科が少ない。日赤で診療を受けたら、初診時の費用が結構かかった。</p>
	<p>高山赤十字病院の建て替えの話があるが、利便性を考えると郊外へ移転しないでほしい。また、医師を確保するため、Uターンで戻る医師に対する奨学金制度を充実してはどうか。</p>
	<p>久美愛病院が郊外に移転し、不便になった。のらマイカーを利用しても病院まで時間がかかるようになり、運行本数も少ないので困っている人が多い。日赤病院の建て替えについては、市民の意見を取り入れてもらい、郊外ではなく歩いて行ける場所にしてほしい。</p>
	<p>風邪で、市内の個人病院へ行ったところ、予約をしていないと診察できないと断られた。</p>
	<p>熱中症の症状があり、個人病院へ行ったが、かかりつけではないと断られた。</p>
	<p>久々野診療所の設備が老朽化している。</p>
	<p>透析歴が長いと心臓発作などの合併症が起きる危険性が高くなるが、高山には専門医がいないので、岐阜や名古屋に行かなければならず、対処できるか心配である。国や県も含めて都市部に高度医療が集中しないような施策を考えてほしい。地方から声を上げてもらいたい。</p>
<p>高山市の病院に200人以上の透析患者が通っているが、災害が起きた場合、透析は1人1回につき約180リットルもの水と電気が必要であるため、対応できるのか心配である。</p>	
<p>高山市で、家庭透析に対応してくれる病院があればありがたい。</p>	
土地利用	<p>地域ごとに住みやすい場所にまとまって住むコンパクト化を進めることで、インフラ整備等財政的に負担も減るのではないかと思う。</p>
	<p>大きい公園、図書館など様々な公共施設が一体化した施設が市内にない。子育て世代が市外に行かなくても、一日楽しめる場所をつくってほしい。</p>
	<p>丹生川地内でも、周辺部に祖父母を残して、若い世代だけ中心部へ移り住む核家族化が進んでいる。</p>
道路	<p>道路整備(公共事業の発注)を計画的にお願いしたい。</p>
	<p>道路修繕を毎年要望するが、同じ回答ばかりである。</p>
	<p>道路整備をするためには、「環境が変われば」と以前市から言われたが、利便性の悪い所は後回しにされると受け止めた。これでは、こうした地域がいつまでも発展することがないと感じた。</p>
	<p>位置指定道路は、開発業者の所有のままでは市道に編入できないので、町内会へ登記して市へ寄贈する形にすれば、将来持ち主や管理者の継承問題を含めスムーズに進むのではないか。</p>
	<p>位置指定道路については、特に幅員の大きいものなどは市で管理してほしい。</p>
	<p>都市計画道路に指定された道路が長く施工されていないケースがあるが、計画の見直し等をしてほしい。</p>
	<p>道路環境等の充実にあたって、高山土木事務所と市の建設部の連携がスムーズではない。県にもっと働きかけをして県の力を引き出すことが大事。県職員と市職員との人間関係が濃密になれば仕事も生まれてくる。</p>
	<p>市の補助金は観光や伝統部門に偏っているように見える。建設関係にも補助制度を設けてほしい。</p>
	<p>公共事業(側溝改修)での境界杭の再現について、可児市のように市で予算化等して対応してほしい。</p>
	<p>歩道のタイルが割れてはがれている。また、市の下水道やNTTのマンホールのふたが盛り上がっているのでつまずきかねない。</p>
	<p>ベビーカーでまちなかを散歩していると、鍛冶橋の交差点付近で段差が大きい場所があり押しにくい。道幅が狭い場所もある。</p>
	<p>ケヤキの木は大径木になり、歩道を破損する可能性があるため街路樹には適さない。</p>
	<p>古代色の車止めやガードレールは夜間見にくい。</p>
<p>石浦町の国道の信号機からゴルフ場の方面へ行く道の線路を越えたところが、雨が降るといつも水がたまっている。</p>	

道路	<p>国分寺通りの国道は大型バスなど大型車の通行量が多いため、道路が傷んでいる。県に修繕をお願いするが、なかなか対応してもらえない。また、道路と歩道の段差が大きいため、歩行者が歩きにくく、積雪時は車がはまって出られなくなることがある。雨水の排水も悪いので、歩道の半分まで水がたまり、店舗の中に入りそうな時がある。</p>
	<p>国分寺通りの国道は、規制が厳しく大型バスの通行が多いので、一般道に格下げできないか。</p>
	<p>古い町並での時間帯による自動車の通行制限や、本町などの商店街での一方通行を導入してはどうか。</p>
	<p>時間規制で中心市街地に車が入れないようにしてほしい。</p>
	<p>車の渋滞を緩和するため、連休中や時間規制でもいいので、市街地でパークアンドバスライドができないか。</p>
	<p>大型バスが中心市街地に入らないよう、市営の天満駐車場、駅西駐車場及び不動橋駐車場をハブ拠点にして停めてもらい、そこでバスに乗り換えるなど、駐車場をうまく活用してほしい。</p>
	<p>中心市街地への大型バスの進入を規制し、駅西方面からのバスは、駅西駐車場に停めるようにしてほしい。アンダーパスが出来てから渋滞するようになった。</p>
	<p>駅西の駐車場に案内看板がない。</p>
	<p>他県から高山に来て感じるのが、雪が大変ということである。せっかく高山の良い企業に勤めたいと思っても、自然環境が厳しいとあきらめてしまうことがあるのではないかと。雪道の運転など、雪対策のアドバイスを市から教えてもらえると助かる。</p>
	<p>移住者には雪道など冬場は住みづらい。将来、高齢になった親を呼んで一緒に住むことは厳しいと考えている。</p>
	<p>勾配がある歩道は、上りは良いが、下りは危なくて後ろ向きでないと下りられない。段差の方が良い。</p>
	<p>丹生川地域は様々な観光資源があるが、いずれも入場者が減少している。中部縦貫自動車道が延長される際は、インターチェンジを地域内に2箇所は設けてほしい。</p>
	<p>中部縦貫自動車道の丹生川インターから先を凍結してもらえるとありがたい。インターを作る場合は、キャンプ場、スキー場のあたりになると思うが、莫大な土地が必要となり、景観が損なわれる。</p>
	<p>平湯にインターチェンジができるなら非常にありがたいが、自然を壊さないよう景観に配慮して整備を進めてほしい。</p>
	<p>奥飛騨地域から高山市街地へは、緊急時の対応を考えると、高速道路を整備して30分圏内で行けるようにしてほしい。</p>
<p>高山市街地に来た後、奥飛騨に来てもらえるよう中部縦貫自動車道等の道路整備をしてほしい。</p>	
<p>午後7時ごろ、国道158号(安房トンネル付近)を市内の運輸業のトラックがまとまって走行する。危険や怖さを感じるほか、渋滞や道路の維持管理面でも懸念する。</p>	
公共交通	<p>のらマイカーは、郊外の地域も回りありがたい。</p>
	<p>のらマイカーを夜10時ぐらいに運行してもらえるとありがたい。地域の活性化のためにも有効だと思う。のらマイカーは必要のない時間に走っているので、郊外ではどう運行すれば良いかを真剣に考えて手厚くしていただきたい。</p>
	<p>のらマイカーの運行時刻は、透析の通院に合わないで、希望の時間に利用できるオンデマンドタクシーを運行してもらえるとありがたい。</p>
	<p>車いすに対応したバス車両を増やしてほしい。運行本数を増やしてほしい。特に土日祝日の運行本数が少ない。今後免許返納者が増えればバスの利用者も増えると思う。</p>
	<p>今は自分で運転できるが、高齢で手足が不自由になり運転できなくなった時は、バスの本数が少なく通院の時間に間に合わない。家族に送迎してもらおうと負担をかけてしまう。移動スーパーが家の前まで来てくれているが、透析は塩分、水分、カリウムの制限があり、必要な生鮮食品が少ない。健康者に合わせて品ぞろえがしてあるので、便利なようで便利でない。良い方法はないか。</p>
	<p>まちなみバスの運行範囲を高桑クリニックまで広げてほしい。運行するバスは小さい車両が良い。</p>
	<p>自分で通えない独居の透析患者がこれから増えると思う。500円で利用できる名古屋の乗り合いタクシーのようなものがあれば良い。</p>
	<p>タクシーは高く乗れないのでバスを使うが、乗るためにいろいろ調べる必要があり大変である。</p>
	<p>バスを使って移動しているが、乗っている人が少ない。</p>
	<p>JRやバスで来た観光客の二次交通を充実させてほしい。マイカーの方向けに郊外に駐車してバスで移動する仕組みについても考えてほしい。</p>
<p>奥飛騨温泉郷地内において、公設民営や行政と民間が協力する形でバス等を循環する二次交通を整備してほしい。</p>	
<p>子どもが遊べる公園がない。町内の遊園地があるが、狭くて遊具も充実していない。松本市はアルプスパークという大きな公園がある。緑地公園は子どもが自転車などで入ると危ないので、安全に整備してほしい。アスファルトをコンクリートにしてほしい。</p>	

住宅公園	子どもが遊ぶところがない。川は危ない、山は熊やスズメバチが出る。親子で行くところがないから市外に行ってお金を使う。例えば原山にアスレチックを整備するなど、今ある資源、施設を利用して楽しめるようにできないか。ほかにもカップルでデートできるスポットをつくるなど、市外でお金を使わなくても良いように、若い人に魅力がある施設があると良い。
	中心市街地に、子どもやお年寄り、観光客などが休める公園がない。駐車場ではなく公園にしてほしい。
	高根の住宅の半分くらいが空家になっており、他地域でも空家が増えている。空地にすると固定資産税が増えて維持できなくなることが要因として考えられるが、空家のままでは火災の原因になる可能性がある。補助金を出して早急に壊していくようにできないか。
	空家の解体は最終手段なので、補助するのではなく、解体前に売るか貸した方が良い。
	空家物件の情報がすぐ分かれば良い。
	空家のマッチングでは、金沢、京都ではアフターフォローまでする仕組みがある。高山市でも空家対策をもっと進めてほしい。現状では、借りたい人は多いが、手放したくない人が圧倒的に多いと実感している。
	他県では、空家を活用して一部の地域ごとホテルのようにしている例がある。他にも、地域住民を構成員に入れた法人が、集落の空家を一括で借り上げてレストランや施設を運営している。そのほか北九州では、空家クリエイターが、空家が続く商店街をリフォームして貸し出している。高山でもこれらを参考に実施できれば良い。
	ある市では移住した人が運営する会社が空家対策を行っているが、市が主導でやるべきだと思う。その会社が市から補助を受けて民泊を始めるとい話があるが、補助金をなぜそのように使うのか理解できない。人件費をコンサルタントに出すより、仕事がない地元の若者に直接支払うことができれば良い。
	畑が付いている空家で、100㎡でも農地法3条許可が取れるようになれば移住促進につながるのではないかな。また、専業農家がいらないような地域を限定してやってみてはどうか。
	家賃が高額なアパートは若者が入居できない。新築した方がましだといって一軒家をローンで建てるが、給料が安いので支払えなくなり市外へ出て行ってしまふ。これからの世代の人が暮らしやすいまちにしてほしい。
	空町で家屋や土地の売買があり所有者が変わっているが、民泊等商売での需要があるためではないか。空家で困っているというがそうではない。
	レッドゾーンに指定されると不動産価値が下がるので、固定資産税の軽減を図ってほしい。
	空家等対策計画の関係で、情報提供を受けた物件で成約に至るものがなかった。接道やレッドゾーンの問題もあるのではないかな。
	空家等対策計画が、ブランド戦略課で行っている空家バンクと上手くリンクしていないように思う。
	別荘などの物件が荒れたり不具合が生じているケースがあるので、空家対策等を進めてほしい。
	納税通知書が送られてこない(税金がかからない)ため、別荘地などの不動産を所有していることを知らない親族(相続者)がいる。
都市部へ出た人が地元の土地を相続しないケースがある。今後10年も経つと大変なことになると思われるので、国を含め行政で所有権の放棄について、仕組み作りを考えてほしい。	
水路占用許可、2項道路の問題があり、建築確認申請の手続きが進み難い案件があった。道路占用許可の手続きがスムーズにできるよう見直しができないか。	
旅館業を営んでいるが、人手が足りない状況である。今後、外国人の労働力に頼らなければいけない状況になってくると思うので、外国人を受け入れるための市営住宅の充実や、居住物件のあっせんなどを考えてほしい。	
上下水道	敷設されている上下水道管が老朽化しているので、地震対策含め敷設換えの対応状況が気になる。
	まちなかにトイレが少ない。
	下水道工事が除外地域になっている。合併前に工事をすると聞いたが話が変わってしまったと受け止めている。
	下水道センターを建設した当時、中切町の地番も含まれていた。地元への説明会等を行う際は、中切町にも知らせていただきたい。
	水道法の改正による民営化、指定管理等による委託においては、水道料金の値上げにならないこと、水の安全をよく考えて進めてほしい。
村時代は、旅館業のごみ処理が家庭ごみ扱いだったが、合併後は産業廃棄物となった。水道料金については、合併後は一般家庭と同じ扱いになり、村時代の4～6倍になった。矛盾しているのではないかな。	
防災	防災ラジオの音が大きすぎて驚いた。もう少し抑えることができないか。
	停電時、防災ラジオがその後3時間で電源が切れて動かなくなった。防災ラジオに月々お金を払っている意味がなかった。
	新穂高地区では停電になった時、受信局の電源が供給されなくなり、防災ラジオが聞こえない。対応できるまで利用料を無償とすべきではないかな。

防災

<p>新徳高地区は焼岳が近く災害の可能性が高い。また、生活道路が一本しかなく、昨年も落石で通行止めとなったこともあり、常に不安を抱えている。自分たちだけでなく、多くの宿泊客を安心させられるよう、災害時でも防災ラジオが聞こえるように優先して整備してほしい。</p>
<p>災害弱者に、防災ラジオを無料で配付できないか。</p>
<p>防災ラジオを無料で全戸配付できないか。緊急放送は、平時も大音量で定期的に流れるが、音量調整ができず、うるさく感じる。</p>
<p>降雨時の屋外放送が聞き取れない。内容が分からないのが不安である。</p>
<p>防災無線の放送内容がよく聞こえない。</p>
<p>災害時の屋外放送が、ゆっくり過ぎて聞き取りづらい。</p>
<p>防災無線から離れた場所では、話す声が分かりづらく、他の防災無線のスピーカーと音が重なると更に聞きづらい。</p>
<p>7月の大雨の際は、「天堤町」が放送されなかった。山口町、塩屋町、漆垣内町の町名のみ放送(表示)されたが、天堤町が入っているのかどうか高齢者を含め地域の人は分からないため、配慮してほしい。</p>
<p>災害時、市のホームページを見たが停電の情報が出ていなかった。中部電力のホームページで確認できたが、市では発信しないのか。</p>
<p>御嶽山が噴火した時、風評被害を受けた。高山市は広いので、せめて支所単位で発表しないとニュースを聞いてもどこのことか分からない。きめ細かい情報発信が必要。</p>
<p>7月の豪雨災害で観光客が減少した。災害に強いまちというイメージになるよう取り組んでほしい。</p>
<p>大雨等で鉄道、道路がすべて遮断され、陸の孤島になることを想定した対応を考えてほしい。</p>
<p>今年の大雨で河川に倒木が溜まっていた。大島ダムの建設について、防災の面からも対応を考えてほしい。</p>
<p>災害時の危機対策を強化し、対応方法を市民に知らせてほしい。</p>
<p>避難勧告が出たとき、犬を避難所に連れて行っていいのか分からず避難できなかった。避難所のルール、避難の方法などを発信してほしい。</p>
<p>広報たかやまに、動物愛護週間などに合わせて、避難時の動物の対応等掲載すれば良い。</p>
<p>福祉避難所の協定締結が報道されたが、市民は何かあればそこへ対象となる方が避難できると感じている。しかし、施設の特徴や避難される人が健康者とは違うので、あらかじめ訓練等しておく必要がある。</p>
<p>平常時に障がいのある方の状況を把握し、対応を考えておくことで、災害が起きた時に混乱を少なくすることができる。障がいのある方も安心して過ごすことができる。</p>
<p>保育園の避難マニュアルは、防火管理者のマニュアルを一部修正した程度の内容なので、小中学校のマニュアルのような内容を含めた見直しをした方が良い。</p>
<p>大雨等は、予防的避難だが、地震は突然来る。町内でも不安を持っているので、普段から非常時の対応を市にお願いしたい。また地域でも考えていかなければならない。</p>
<p>避難所によっては、まち協や町内会が運営にあたったが、当会でもマニュアルの周知に努めたい。</p>
<p>避難所の自主運営の手引きを作成いただき感謝する。しかし、市民や地域への認知が図られておらず、町内会でも回覧されたが、住民の意識にあまり残っていない。</p>
<p>避難勧告等が何の理由で出ているのか住民は理解できずに避難をしているように見受けられる。町内会に出された場合、レッドゾーンにかからず危険性が低い方も避難しているので、細かく指示を出したほうが良い。</p>
<p>レッドゾーンの見直しについては、利害関係に影響を及ぼすため、慎重に行ってほしい。</p>
<p>災害時に通行可能な道路を示したマップがあると良い。路線名等の文字情報では、どの場所なのか分からない。観光等で市外から問い合わせがあっても答えられない。</p>
<p>ハザードマップの地図では避難経路が分かりにくい。避難ルートを地図に示してほしい。</p>
<p>自宅はハザードマップの土砂災害地域から外れているので、近所で体が不自由な方を一時的に預かった後、天候が落ち着いたら保育園、ビッグアリーナなどの安全な場所に避難してもいいのか。</p>
<p>先の大雨の際、市役所へ電話で問合せをしたが、対応に追われているようで、「ハザードマップを見て確認してください」等、対応が不親切で、聞いた内容にばらつきがあった。</p>
<p>避難所の収容可能人数が、ハザードマップ等で分かるようにしてほしい。備蓄品の数量も分かるようにできないか。</p>
<p>備蓄倉庫(備蓄品)を、各避難所に置いてほしい。</p>
<p>花里小の備品は、校舎の奥にあり、非常に分かりにくい場所にある。日枝中では、空き教室を備蓄品置き場に活用した例がある。</p>



防災	花里小の避難所では、パーテーション、毛布の数が後から来た人の分が足りなかったり、先に来た人が広く場所を取っていたりしていた。また、備蓄品(食糧)も来た人全員分足りるのか分からなかった。
	瑞浪市、関市では防災備蓄品(油圧カッター、発電機、リアカー等)を消防団や町内会に配備している。高山市でも予算化するなど対応してほしい。
	避難所のトイレ対策として、浄化槽型のトイレの設置をお願いする。
	先の大雨で避難勧告等が発令されたが、対象地域の避難者は5%程度だったので、残念に感じた。
	ある避難所に行ったら、人が一杯なのでビッグアリーナへ行くように言われた。あらかじめどこに行ったらいいか分かるようにしてほしい。
	工業高校の体育館が、県の施設のため開設できなかった。
	避難所が遠くどうやって行くのか分からない。一時避難所は近いところじゃないと意味がない。
	避難の際、石浦町では、避難所である石浦公民館までの途中の道が危ないので、誰も行かない。対策を考えてほしい。
	台風の時、石浦町に避難勧告が出されたが、今住んでいる家は周りに川も山もないので家にいた。避難所である公民館へ行く方が危なかった。
	災害時に山王小学校に避難する際、体育館の周りが浸水していた。早急に対応してほしい。
	避難所は、校下単位ではなく町内会ごとで作るべき。一晩でも他の町内会の方と一緒にだとストレスになる。さらに地震で長期にわたると相当なストレスになると思う。近場で小規模の避難所が良い。炊き出しもしやすい。
	天堤町は、指定避難所(江名子小、東小、東山中)が離れている。独居の高齢者(ポータブルトイレ利用者もいる)は、自身で移動することもできず、地域で助け合って、天堤町公民館に自主的に避難した。
	災害の時、一人暮らしのお年寄りが、近所の人が誰も来てくれなかったと言っていた。地域のコミュニケーションが必要である。
	三枝小学校は以前、災害時の避難所だったが、裏山の木が倒れて電線に引っかかる可能性があるため避難所から外してあると思う。三枝小学校の近くに車いすの方や介護が必要な方が住んでいるので、木を切って避難所にしてほしい。また、上切町のお寺は広い部屋があり、食事も大人数分作れる台所もあるので、避難所に適していると思う。
	指定避難所ではない近くの公民館に避難する場合も、避難の状況や備蓄品等のこともあり、市と町内会長が連絡を取れるようにしてほしい。
	大雨の災害時に山崩れがあったのは植林した場所であり、間伐もしていないので、ある意味人災とも捉えられる。また、避難所の東小、東山中、松倉中、高山高校付近でも山崩れがあった。避難場所を点検し、見直すべきではないか。また、警報などのメールが繰り返し多く入り、分かりにくかった。災害時の伝達方法の工夫を。
	電線に倒れそうな木がないかパトロールし、前もって対処できないか。
	救急車が市内に9台しかない。災害時に個人の車で運ぶよりも、機動的に対応できるよう消防団の消防車が救急車として、怪我人を搬送できるようにしてほしい。
	応急手当普及員の資格を持っているので、消防での活用等を相談したが、講習会等の話はない。機能別消防団員等での活用なども考えてほしい。
	郵便局長会では、地域貢献のため防災士の資格を取るようになっている。市職員でもこうした取り組みを進め、対応力の向上を図ってほしい。
大雨の災害時に、避難所対応で職員が不眠不休で対応してくれたので、地域としてありがたかった。	
地震等の際は、十分な職員体制が整わないことも想定されるので、避難所運営リーダーを育てる必要がある。ある避難所では、職員がいつでも対応してくれるという意識があり、危機感をあまり持っていない。先の大雨のように避難所を70箇所余り開設し続けると職員も不足してくる。	
熊本地震でも、職員が怪我等ですぐ駆けつけられないケースがあった。職員は率先して、自分の家の家具固定や住宅の耐震補強などをすべきではないか。	
危機管理室が危機管理課となったことは、組織として縮小したようにも見受けられるが、体制が変わらないようにしてほしい。	
安全	歩車分離信号が市内に数箇所あるが、本町以外は渋滞や違反が目立つので必要ないと思う。
	外国人ドライバーが一方通行を逆走するケースがある。外国人にも分かりやすい道路標識が必要だと思う。
	LED防犯灯の建て替えは市の補助を受けて行った。10年経つと電球の交換時期が来るが、これについても補助してほしい。
	最近の災害で、停電やJRが止まることが多い。民地の倒木の伐採もスムーズにできるようにできないか。安心、安全な地域づくりをして、高山市は災害に強いまちであることを外から来る人にPRすることも必要。

消防	団員の特典カードなどもあるが、消防団への手当を充実してほしい。スーパー店頭での消防団員勧誘の方法では、入会は望めないのではないか。
協働	町内会に入らない世帯が増えており、地域のつながりが疎遠になっている。市からの情報を町内会に頼っていると、通じない場合があるので手立てを考えなければいけない。
	上岡本町では、1,500世帯のうち加入が950世帯であり、地域の連携づくりが必要である。転入の際に町内会に加入してもらえような取り組みを行ってほしい。
	昔は、新しく引っ越してきた人は、近所の人にいろいろ習ったり話をすることで、どんな人が来たのか分かったが、今は聞かなくても分かるようになってきたため、話す機会がなくなりコミュニケーションが希薄になっている。市民活動に参加し、いろいろな人と話をすることは大事なことだと感じている。必要な活動だと思うので、行政も協力、サポートしてほしい。
	町内会によっては、転入者に市からの情報が伝わらず、会費の使途の報告もないところがある。
	町内会の子ども会行事で、未加入の子どもにもお菓子をあげるが、連れに来る親が町内会に関心がないためか、ありがたみを感じていない。
	夏休みのラジオ体操の皆勤賞を町内会未加入者の子どもにも出しているが、会費を納めている人との公平性について悩んでいる。また、未加入者の子どもに出さないと、どうしてうちの子はもらえないのかと聞かれることがある。
	地域愛が強い人は、時間がなくても環境をはじめ地域の活動に参加する。家庭を持つ世代(30代～)になって地域のことを意識するようになる。若い世代を巻き込み、次へのつながりを作っていきたい。政治は市民で作るものだと思う。
	一之宮のある地域では、大人同士が仲良く、まとまりがある。地域のことは自分たちでやる意識があり、少子化の中で子どもの生まれる数も多い。
	各世帯が高齢化している中、高齢になってからの班長は大変である。月に3、4回も回覧を回したり、掃除や会合などの出役も多い。町内会の簡素化が必要である。
	敬老会を開催しようとしたが、全員欠席だった。また、盆踊りも、役以外の参加者がいなかった。そういう時代になってきていて寂しく感じる。高齢者ならではの知恵を活かせないかと考えている。
	高山市全体において、少子高齢化により一人暮らしのお年寄りが増え、地域の行事が無くなるなどの問題が気になりである。
	少子化で地元から子どもが市街地や市外へ出て行く。若者にとって便利の良い所ばかりでなく、地域に住む策がないか。また、市街地から見ると、宮峠を境に遠いイメージがあると思う。
	戦後から一昔前は、結婚することが当たり前のような時代で自然と子どもも増えていった気がする。また最近では、結婚しない人が増えている。
	会合へ女性ももっと参加するなど、女性が活躍する場づくりや男女協働参画を進めることが大切。
	これからの世代の人たちがやりたいと思っている活動に対して、市役所が後押しすれば、市民主体で取り組むようになる。
	人権擁護委員は人数も少なく認知度も低いので、もっと活動を宣伝する必要がある。議員などいろいろな分野の職域から選ぶことで、幅広い宣伝もできる。講演会を開催しているが参加者が少ないので、広報を工夫することが大事。人権をもっと考えてもらえるような体制作りが必要だと思う。
	高校生など若者のボランティアが簡単にできる方法を進めてほしい。その高校生が大人になり、地域のボランティアを考えるようになれば住みやすいまちになる。
	様々な問題があるが、最終的には自治会であり、助け合いである。自助共助を市民が自覚し行動することで良いまちになる。高齢者が高齢者を支える時代であり、それを自然にできる土壌を住民レベルで作っていけば良い。
	まちづくり協議会は、高齢者の手助けなど地域で必要と思う。
	最近では、同世代同士での関わりはあるが、地域での子どもと大人の関わりがなく、子どもが地域の大人の顔を知らない。まち協は多世代の関わりがある活動だと思う。
まちづくり協議会は、地区社会教育運営委員会が統合された組織に感じる。まち協ができる前の活動を引き継いでいる取り組みは、見直しが難しい面も感じる。組織が町内会に比べ大きい組織なので役員も取りまとめなど大変に見える。	
まちづくり協議会が、役をしている人たちだけのものになっていて、地域のコミュニケーションがとれていないと感じる。もう少し地域の団結が必要ではないか。	
飛騨の魅力を子育てに活かす活動をしている。子どもたちに高山の仕事の体験をさせたいので、まち協に協力を依頼するが断られる。地域の課題に取り組んでいる団体とお互いの情報を共有し、連携しながらまちづくりに取り組みたい。	
まちづくり協議会ができてから、良くなったとあまり感じられない。市民にまち協についてアンケートを取ってみてはどうか。	
まち協ができてから、要望してから時間がかかったり、年に1回だけしか要望する機会がないなど不便さを感じている。	
まち協の地域枠の予算が見直されたとのことだが、側溝工事なども含まれるため、地元の道路の補修に予算が回っていないと思う。	

協働	まち協交付金は使途が特定されていて要望してもわずかであり、予算が乏しく、許容範囲が狭い。面積などいろいろなことを考慮してほしい。
	まち協の中に産業部会があるが、活動を行う際いろいろな規制がありやりにくい。観光協会や商工会が所属しているが、まち協として機能できていない。
	まち協を通じて提出する要望では、場所を示す地図の準備など手間がかかる。
	まち協で優先順位を決めて支所に要望したら、要望した側溝修繕はできないと言われた。まち協の意見も聞いてほしい。まち協は地域の中心的組織でもある。
	道路、側溝等の維持修繕工事は、まち協で各町内会の要望事項に優先順位をつけるため、工事が遅くなった。
	まち協で実施しようとしたことが、本庁の財政課で断られたと聞いた。財政課は大事な部署であることは理解できるが、地域で相談して決めたことが実施できないのはおかしいのではないか。
	まちづくり協議会の事業は、継続事業が多く、中には人が集まりにくいものもある。
	まちづくり協議会と市民活動団体や市などがもっと協力、連携し、未来につなげられる事業が展開できればと思う。
	まち協は高齢者が多いが、より良いまちづくりを進めるためには若者を取り入れることが必要。若者が参加する方法を検討するべき。
	まちづくり協議会の行う活発な活動に対して交付金を増やす等の支援や工夫をしてほしい。
	他のまちづくり協議会が実施している良い取り組み事例を共有できるようにしてほしい。
	市には、様々な団体を結びつける役割を担ってほしい。
	市民活動に若い人達が参加してほしい。市の職員には活動団体の意見を聞いてほしい。
	やる気のある民間団体が力をもらえるよう、行政にはしっかりバックアップをしてほしい。
	高山で行っている施策の適切な情報発信をしてほしい。
	最近知りたい情報はインターネットで入手できるので、新聞を購読しない人が増えている。
	市の広報は新聞折り込みで配布しているが、新聞を購読していない世帯が多いので、フリーペーパーに掲載した方が良いのではないか。その方が字が大きくカラーで見やすい。若者や外国人にはツイッターが有効である。すぐに伝えたい事がある場合はヒッツFMを利用すれば良い。
	新聞を購読してなくても、広報紙を送ってもらえることを知らない人が多いと思う。新聞よりもフリーペーパーに挟んで配る方が全戸に届く。
	市のホームページは堅苦しく分かりづらい。文字を入力しないと目的のページにたどり着けない。クリックだけで目的のページを見られるようにならないか。サイトのトップページが良くないので、見に行こうという気にさせられない。
	市のホームページの施設予約のページの動作が遅く、よく止まる。数年前に市のホームページがリニューアルされたが、施設予約のページは以前のまま変わらず使いにくい。
他市のホームページは、子育てや住宅など各分野のページを独立して作っている場合があり、利用しやすい。また、子育てで忙しい母親は、ラインで情報発信した方がワンクリックで見ることができるので良い。	
市からの情報が行きわたっていないのが不満。今の時代に合った情報発信の方法を考えてほしい。	
若者に情報を発信する手段が少ない。魅力的な情報の発信方法について考えてほしい。	
新聞に掲載されていたが、親が高山に残るよう言った人は5人中1人だった。高山の人口が減っていくのは残念だが、高山に住んでもらう事だけを考えなくても、市外に出た人に高山のことを発信してもらえば良い。	
携帯の設定の関係もあるかもしれないが、市からのメール登録設定が上手くできずに、そのまま未登録の市民が結構いると思う。	
交流	多方面の国際交流は大事である。一国とだけでは、社会情勢の変化などで関係が冷えると交流が停滞する。いろいろな人、産業で他国との交流を進めるべき。高山の国際交流は秀でている。
	国際交流は費用がかかるが、高山市のスタンスをしっかり持って進めることが大事。すぐに結果が見えるものではない。
	国際化を進めるには、市の体制として海外戦略課だけでなく、各部署との共有や横断的な仕組みで推進することが必要である。
	外国人観光客が増加しており、習慣の違いによるトラブルや犯罪が懸念される。外国人の習慣を市民も含め理解しておくべき。
	高山はイメージがよく魅力があるので、多くの人に来てくれる。市民のホスピタリティも必要であり、外国人の文化やマナーを市民が理解しながら、交流を進めるべき。
30年後の高山を考えると、人口が大きく減少し、年金が減って消費が縮小し、人手不足になる。日本中の人口が減少しているので、海外から移住しやすくする施策を今から行うべきである。	

交流	ターゲットを絞って、人(移住者)を集める取り組みが大切。空家対策も含め、移住政策を進めてほしい。
	アトピー性皮膚炎の症状が重い方が、高山市の病院が気に入って移住し就職した。ユニバーサルトイレは障がい者じゃなくても使いやすい。このようなことでも高山市に移住する一つの手段になる。
	移住の補助金の手続きで、申請と契約で2回遠方から来ていただくことがある。移住者に対する固定資産税の優遇などをしてはどうか。
	隣地に家を建てた方はあいさつ等なく、希薄さを感じる。
	小屋名地区でも空家が増えている中、1軒(親子3人)移住で空家に居住されたケースがある。消防団にも加入し、地区でも歓迎している。
	支所地域は、昔から住んでいる人が多いので結束は固いが、外部から移住しにくい雰囲気がある。地域のルールが厳しいと住みづらさがあるので、若い世代が住みやすくなるように考えてほしい。
	高山は地域が密着していて、大人になってもつながりが続くことを活かして、戻れる環境づくりを考えてはどうか。
	若者が本人の意志で何かを求めて、外へ出て行くことは仕方がないので、来てもらう人(移住者)を呼び込む取り組みが大事である。
	10年前にUターンで戻り、農業と旅館業を営んでいる。おいしいお米プロジェクト、民俗村活性化、今年の観光大学等、市と関わらせてもらっている。飛騨のおいしいお米の炊き方を飛騨中に広めることを考えている。こうして楽しんでいる大人がいることを次世代へ伝え、Uターン等につなげていきたい。
	農家の手伝いに来る市外の方がいる。こういう取り組みを進め、移住にまでつなげられると良い。
	稲作を行っている人は、管理費も相当かかっている。田と住宅を一緒に購入できるようマッチングができると良い。
	まちづくり協議会や地域で多くのイベントが開催されているが、それらの情報を得るには、自ら情報収集をしないと得られない。また、そういうイベントに一人では行きづらい。
	行財政運営
参加型イベントでは、定員を設けないイベントも必要。初めての申し込みで断られると、次回は申し込みしないと思う。	
総合計画は八方美人で当たり障りがなく、良いことと思えることしか書いていない。市として今後、全国で初めての政策を始めるなど、もう少しとんがった政策が1つ2つあると良いのではないか。	
今まで総合計画に美しい文章できれいな言葉で書いてきた。今後どうあるべきかは今が一番大事。これからは現実にやれることを総合計画に盛り込み、実際に行動していくときに来ている。	
総合計画の基本理念が非常に抽象的である。	
総合計画に示す施策が、短期で実施するものから長期に至るものまで横並びになっているため、分かりにくい。総花的なイメージがある。	
総合計画の概要について、中身の変化(進捗)が市民に分かるものがない。各分野の取り組みの進捗(どの程度できた、できなかった)を市民に示すべき。	
総合計画の個別分野に、遊び、趣味を入れてほしい。	
過去の総合計画で積み残しなどが無いのかと思う。また、ここ数年で何かができるといった目標があっても良いのではないか。	
総合計画の見直しにあたっては、地域ごとの計画について考えてほしい。支所も把握したうえで、地域の計画を作してほしい。	
見直し後の総合計画は、目標を絞ってやるのが大事。優先順位をつけることも必要。	
総合計画は今後10年間のまちづくりと書いてあるが、100年後、せめて50年後を見据えないと10年後はあっという間に来る。100年後にこんなまちにしたいと考えたうえで、10年後にどこまで実施する等ステップアップしていくのが良いと思う。	
高齢者問題や少子化対策などいくつかの課題があるが、1つ大きな目標を掲げて進めれば、結果は後でついてくる。また、10年間の計画の中で、毎年1つずつ、10種類の施設を作るなど、大胆に進めてほしい。	
市の具体的な取り組みが分かりにくいので、今必要なこと、特化して取り組むことを知恵を絞って進めてほしい。	
市は福祉事業にもいろいろ取り組んでいるが、全体としては観光ばかり注目される。市民の福祉と観光が両立すれば良い。計画を作る際は、見せ方、可視化について考えてほしい。	
飛騨山脈ジオパークは、日本に誇れる地形、地質があり、世界にも誇れる素晴らしさがある。ジオツアー、観光誘致、地域教育、環境保全などが期待されるので、総合計画にジオパークを入れてほしい。	
市民アンケートの地球環境の満足度が低い。飛騨山脈ジオパーク推進協議会の取り組みは、意識の改善に貢献できると思う。総合計画にジオパークの文字を入れてほしい。併せて支援もお願いしたい。	

公的見解は難しいと思うが、100年、200年、300年先の高山市をどう考えているか。
人をどう増やしていくのか、今の市の施策では分からない。
人口減少、少子化、高齢化は似ているようで異なる課題なので、切り離して議論すべきと思う。
人口減少で言えば、この地区も昔は100世帯あったが、現在は54世帯ほどになった。跡取りがいないことが大きい。
持続可能な地域を作るため、まちを背負っていく20代、30代の世代の声を聞いてほしい。年代によって意見が違う。
市は、部署を横断した取り組みが弱い。飛騨・世界生活文化センターの建設時に、子どものための楽しい場所やものづくりができる場所などを提案したが、聞き入れてもらえなかった。また、人口減少は以前から想定できたのに何も対策ができていない。横のつながりがあれば早めに対策ができた。
市が実施する各事業を、それぞれ単独で行うのではなく、連鎖的につなぎ、循環できるような流れがあれば良い。人同士が連携すれば効果が大きい。
これからは箱物、人を減らし、民間団体と行政と一緒に取り組むことで地域が活性化すると考える。
補助金や市の施策は、知っている人だけが得をするのではなく、誰もが気軽に相談（訪れること）ができる窓口を設けてほしい。
ふるさと納税の寄附メニューに「動物愛護」を作ることはいかぬか。市内の人間が動物愛護のため他の自治体に寄附するのを防ぐことができる。その寄附金を動物愛護に活用してほしい。
映画館を市内に作っても市民は外へ出かけて観ると思う。市民の要望に応えても新たな要望がまた出てくる。ないものねだりでなく、地域の良い所を共有していくことがまちづくりにつながるのではないか。
富山市はコンパクトシティで成功しているが、高山市は広いので、コンパクトシティは支所地域を切り捨てることになるため高山では実施できないと思う。
市政において、市街地と周辺地域における格差があるので解消してほしい。市街地の職員にも周辺地域の理解を深めてほしい。
市街地と支所地域で行っている事業の差はなくなってきていると感じる。
高山と国府の意識の差を感じる。中心部に日があたるが、支所は暗い。
支所に地域振興専門の職員を置いてほしい。
市街地は、高山駅や周辺整備が進み、良くなっているように見えるが、支所地域には光が当たっていないと思う。
合併後、本庁と支所間の人事異動が行われているが、今になって弊害が出てきている。支所の職員は、地域の山や道路基盤のことなど良く知っているが、合併して本庁に異動になり、分かる職員がいなくなっている。合併しなかった方が町村の衰退につながらなかったのではないかと感じる。
各分野の専門性を高めるため、短期間で変わらない市の人事異動にしてほしい。
市の施設管理は委託が多いが、クレームが多いのではないか。市民への対応が低下しているので、改善してほしい。
観光客に優しいだけでなく、住んでいる人にも優しいまちを望む。
スポーツ施設整備基金を作してほしい。
新高山駅舎の電球を替えるには、屋根を外す必要があり経費が大きい。予算を大切に使うしてほしい。
市街地は駅前周辺などのインフラ整備に投資しているが、高根は支所になり予算がない。まち協も予算がなく対応してもらえない。高根の土地は脆弱で倒木が起きやすく、地震が発生すると集落が孤立するので対応が必要だが、支所に予算を与えてもらえないと何もできない。
市役所、文化会館の駐車場区画が狭く不便。
統合により廃校となった、旧丹生川東小の建物について活用を検討してほしい。
入湯税は目的税であり、泉源の維持などのため、支払った温泉地へ還元する目的で客から預かる税金である。使途の説明が不十分である。せめて半分ぐらゐは上室の泉源地で有効利用できるようなシステムを作してほしい。
入湯税は目的税なので、奥飛騨温泉郷で徴収した半分ぐらゐは地域に還元してほしい。観光の宣伝や地域のイベントなどの形で良いのでお願いする。
災害が発生した時は、旅館のロビーや駐車場を客に提供したいと考えているので、せめて営業スペース以外のロビー、駐車場、機械室、非常階段を除外するなど、税金を軽減してほしい。固定資産税が同じ業種の3倍はあり、厳しい状況である。
市の郊外では従業員が住む場所がないため、各旅館で住居を整備しているが、補助もないので、今後海外からの従業員が増えると費用がかさむ。市街地よりも郊外の税金を緩和していただきたい。郊外に住むことの負担の大きさを分かってほしい。水道代も市街地と一緒に、郊外に住む意味がない。また、子育て世代は費用がかかる一方なので、郊外へ行けばいくほど、安全で良い環境で生活できるという利点を打ち出してほしい。

その他	アンケートの「関心がある」ということは、市民の不満の表れだと捉えられる。
	市民アンケートを見ると、スポーツの観点が少ないと思う。
	アンケートでは、記入者の職業が会社員とだけしか選べないが、高山の会社員は木工が多い。属性をもう少し詳しく調べないと肝心なことを見落とすので考えてほしい。
	アンケートの重要課題に獣害対策の項目がないが、必要な取り組みではないか。
	市民アンケートで多数の自由意見が出されている。こうした課題に対して翌月、翌週には成果を出すことが大切だと考える。
	行政の課題と地域の課題は違うことがある。また、地域からの意見についても、役をやっている年配の方が多く、若者の意見が少ない。10年後の姿は70歳と20歳では違うので、若者の意見をもっと聞いてほしい。
	若い人が高山を好きになることで高山に住んでくれる。若い人の意見を聞いて反映できれば良い。
	中高生から20代までの若者が、スケートボードやライブハウスなど、のめり込んで遊べる場所が必要。高山でやりたいことがないので、市外へ出て行ってしまふ。
	高山市には、ワクワクする感じが無い。若者が住みたくなるまちづくり(都会の真似ではなく、若者が集い楽しむ場所や、雇用施策などに積極的に取り組んでほしい。子どもが大学等に進学後に戻らないのは、地域に楽しみがないからだと思う。娘家族が嫁ぎ先から遊びに来て、小さい子どもを連れて遊びに行くところがない。2、3日で行くところが無くなり飽きる。
	高山の若者は夜、何をしているのだろうか。町中で見かけることがない。
	市外の大学に行った生徒を、どれだけ呼び戻せるかが重要である。
	高山から転出した高校生が戻ってこないのが問題である。保護者に聞いたところ、高校生は行きたい進路がなく、何となく大学へ行っているの、都会が面白くなって帰ってこない。若者に魅力のあるまちづくりを考えなければいけない。
	身近な問題は人口減少と高齢化である。若者がいないので、行事ができなくなる。今後の市政において、重点的に進めれば市もよくなると思う。
	少子高齢化が問題であると言われるが、具体的な市の方針が見えない。大学の誘致や高山で仕事ができるIT産業など、若者がどうやったら増えるかということを考え、若者を増やすことが一番大事である。観光だけでは行き詰まると思う。
	少子高齢化の一番の問題は、高校卒業後、高学歴を目指して市外へ行ってしまふことである。将来的に地元に戻ってくるようにするのが大切である。地元の高校や市教育委員会でも、地元に戻る取り組みを始めている。
	子どもたちが帰ってきたくなるような施策が必要。例えば住民税を10年間免除するなど税制面で優遇したり、補助を出したりしないと帰ってこない。高山の求人倍率が今、分野によっては4倍もあるのに仕事がないと親が言っているのも原因である。子どもに飛驒の魅力を教える郷土教育も必要である。施策を考えないとますます人口が減少する。知恵を出してほしい。
	市役所は、全体的にマイナス面ばかり考える。慎重に考えすぎると一歩が踏み出せないの、若者のための施策をプラス思考で実施してもらいたい。
	ほかの地域では実施していない、高山独自の取り組みを行ってほしい。
	市の取り組みは選択と集中が重要である。集中することで、大きなうねりになる。
	行政側の横の連携があまりないように思う。例えばこうした会議に協働推進課なども同席すると話が浸透、進展するのではないかな。
	市の補助金メニューが分からない。ある部署で職員に聞いても担当している補助金しか分からなかった。
	市長が言っている市民が主役とは、聞こえは良いが意味が分かりにくい。市民は予算編成に参加できないし、まち協でも予算が通らない。一部分では主役だが、大枠では主役ではなく、行政、議会、市長の考えもある。しっかりとすみ分けして、あまり前面に出しすぎない方がよい。
	最近、ホテルや飲食店などが新しくできるが、ほとんどが市外の業者であり、売り上げは市外に流れる。正社員は市外から来て、市民はパート。観光に力を入れるとこのようなことになるので、市は市民の生活のことをもっと考えていただきたい。
生活困窮者がかなり増えている。親を介護する独身の子どもが増えていて、その子どもは職場が安定していない場合が多い。生活水準が豊かな人と苦しい人に二極化しており、お互いに助け合う域から脱している。今後どのようにしていくか考えなければと思う。	
高山の人間は、まちに誇りがある分こだわりがある。こだわりをもう少しゆるめればもっと良いまちになるのではないかな。	

●ワークショップ

【テーマ】リハビリ職が考える高山市の将来のまちづくり

1グループ

区分	現状と課題等	今後に向けて(対応策等)
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出したくてもできない人がいる</li> <li>・高齢者が気軽に外出できる環境(必要頻度、目的地の把握)</li> <li>・地域の高齢者世帯の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の閉じこもり防止対策</li> <li>・在宅周辺での活動の場の充実</li> <li>・訪問サービス、移動販売の充実</li> <li>・集団コミュニケーションリハビリの場の整備</li> <li>・高齢者がもっと外へ出かけられるインフラ整備</li> </ul>
介護予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅でも予防等の短期リハビリができるようにして欲しい</li> <li>・自由に参加できるリハビリセンター(中学校区、支所単位)</li> <li>・介護保険外のサービスの充実</li> <li>・共生サービスはもっと早く切れ目ないケアを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護状態になる前の予防リハビリ</li> <li>・リハビリが必要な人にスムーズに入れるシステム・チームづくり</li> <li>・若い世代への介護予防の働きかけ</li> </ul>
啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリを知る機会が少ない</li> <li>・認知症を知る機会が少ない</li> <li>・誤解のない社会づくり</li> <li>・相談できる場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ自体の啓発が必要</li> </ul>
人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者、高齢者は守られる側でなく、支える側になる</li> <li>・高齢者が活躍できる仕事、役割の場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生のインターンシップの受入</li> <li>・中高生への職業説明(講座)</li> <li>・若い世代のうちから認知症について勉強する機会をつくる</li> <li>・リハビリ職等の魅力ある職場づくりとPR</li> </ul>
リハビリ職の基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ職がもっと活躍して欲しい</li> <li>・病院のリハビリ職と在宅リハビリ職(小規模が多い)がもっと連携できるように整備してほしい</li> <li>・市も入って、職種を超えた交流を支援して欲しい</li> <li>・訪問リハビリ事業所がもっと増えると良い</li> <li>・脳卒中だけでなく、認知症の作業療法士も充実すると良い</li> <li>・地域ケア会議にもっと呼んでほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が間に入ってつなぎ役になる</li> </ul>

2グループ

区分	現状と課題等	今後に向けて(対応策等)
啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅リハビリ(特に若い世代)のことを知らない(リハビリの重要性、周囲の理解不足)</li> <li>・認知症の方への理解が少ない</li> <li>・介護保険について理解が乏しい</li> <li>・予防の取り組みを知らない人が多い</li> <li>・体を動かすことの大切さを分かっているにもかかわらずできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発不足は、すぐ改善できる可能性がある</li> <li>・行政が声かけ(啓発)をする</li> <li>・まち協の活用(協力)</li> <li>・プラスアルファの業務(本来の業務以外の活動)に対し報酬があると動きやすい場合がある</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設間の役割分担がもっとできると良い</li> <li>・病院のリハビリ職と在宅リハビリ職の連携不足</li> <li>・今回のような話す場が欲しい(行政に意見や考えを伝えるのは敷居が高い)</li> <li>・包括的な動きが欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が繋ぎ役になる</li> <li>・気軽に相互(リハビリ職と行政)が情報交換できる機会や、アプローチ方法(SNS等)があると良い。</li> </ul>
マンパワー不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ職等不足</li> <li>理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等</li> <li>・Uターン、Iターンが少ない</li> <li>・将来、リハ職を目指す高校生が毎年30人位病院に見学に来るが、高山に戻らずに進学先で就職することが多い</li> <li>・地元の魅力がないと離れてしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対するキャリア教育</li> <li>・専門職がどんな仕事をするのか知ってもらうことが必要(その資格を目指して進学してもらう)</li> <li>・安心して高山に戻ってこられるようなまちづくり(医療体制が整っている、雇用があるなど)が必要</li> </ul>
地域に対する期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車がないと生活しにくい</li> <li>・要介護者、家族介護者にとって安心して外出できる場所がない</li> <li>・終末まで安心して過ごしたい</li> <li>・地域の受け皿が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対するキャリア教育(時間をかけて改善が必要)</li> <li>・安心して在宅で暮らせるよう、介護や介護予防の受け皿を確保することが必要</li> </ul>

### 3グループ

区分	現状と課題等	今後に向けて(対応策等)
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方の行き場がない</li> <li>・地域の認知症の理解が少ない</li> <li>・老人保健施設の役割である在宅復帰がなかなかできていない</li> <li>・高齢者雇用先が少ない</li> <li>・高齢者、障がい者の社会参加の機会が少ない</li> <li>・健康増進活動における専門性の低下</li> <li>・老人保健施設が、特養の準備施設になっている</li> <li>・保険外サービスの不足(特に介護保険の対象外になられた方)</li> <li>・現場の介護士不足、サービスの質の低下</li> <li>・予防に対する考え方(生活習慣病など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を続けるためには、在宅のリハビリが大切</li> <li>・予防につながるリハビリの実施</li> <li>・リハビリサービス終了後に利用できる高齢者の健康増進のためのサービス(トレーニング施設の活用)</li> <li>・介護人材の確保</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、介護のリハビリ職の連携不足</li> <li>・行政と医療・介護のつながりが少ない(特に小規模の施設)</li> <li>・医師と在宅リハビリ職の連携</li> <li>・行政と医療介護現場でのリハビリのニーズの違い</li> <li>・保険サービス以外の高齢者、障がい者の移動手手段不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種による様々な連携を模索する</li> <li>・お互いの現状を把握する</li> <li>・啓発活動をする</li> <li>・市民の抱える問題を把握する</li> <li>・リハビリ職、行政、利用者が一体となったまちづくりを目指す</li> </ul>